

# 平成22年度 鹿児島湾流況観測報告書

平成24年2月

第十管区海上保安本部

## 1 はじめに

鹿児島湾は、湾口の幅約12km、奥行き約80kmの南北に細長い湾で、最深部の水深は230mを超え、湾口より湾奥が深い特異な地形をしている。湾内には人口60万人を超える鹿児島市や大規模石油基地が存在している。また、海底地形の特徴から人工的要因による海水の汚染が低層に蓄積され表面化しにくいとの指摘もある海域である。このため、海洋情報の需要に応え、海洋環境問題や事故、災害の発生に適切に対応するためにも湾内の海水循環の仕組み及び実態等を把握しておく必要がある。

本観測は、平成22年度海洋情報業務計画に基づき、鹿児島湾内において年間を通じた流況、水温、塩分等の基礎データを取得することで更に海難事故等の発生時における漂流状況の予測精度向上のための資料を整備することを目的として実施した。

## 2 観測概要

観測項目と方法を以下に列記する。観測機器の一覧を表1に示す。

以下、湾内を3区域に分けて、西桜島水道以北を湾奥部、西桜島水道以南から指宿以北を湾中央部、指宿以南を湾口部と表記する。

### 2.1 観測期間

平成22年4月23日～平成23年3月24日  
年間11日間

### 2.2 観測船

測量船「いそしお」 30トン

### 2.3 観測海域

観測線及び観測点を表2及び図1に示す。

各測点において、表層水温・表層塩分・海上風・透明度の観測を実施した。観測線において、海潮流、表面水温の観測を実施した。なお、観測点番号は、平成15年度からの観測と統一するために連番ではない。

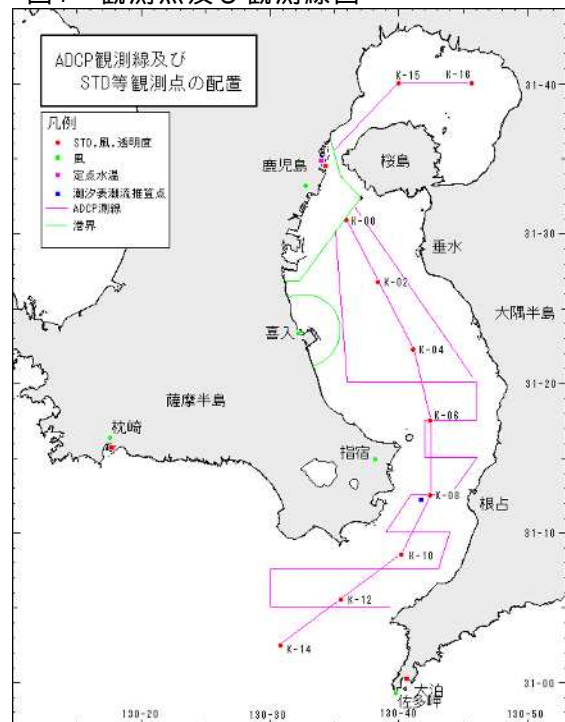
表1 観測機器一覧

観測項目	観測機器	備考
海潮流	ADCP	244kHz
	古野電気CI-60G改	5～100m層
表面水温	電気式温度計	海面下1m
	古野電気TI-20E	インテイク法
表層水温	STD	
表層塩分	JFEアレック(株)	
	AST500-PK	
海上風	風車型風向風速計	海面上9.4m
透明度	透明度版	

表2 観測点一覧

	測点	緯度	経度	水深
湾奥	K-15	31°40'00"N	130°40'00"E	150m
	K-16	31°40'00"N	130°45'45"E	201m
湾中央	K-00	31°31'15"N	130°35'45"E	165m
	K-02	31°26'45"N	130°38'27"E	228m
	K-04	31°22'15"N	130°41'09"E	204m
	K-06	31°17'30"N	130°42'30"E	118m
湾口	K-08	31°12'30"N	130°42'30"E	109m
	K-10	31°08'30"N	130°40'11"E	103m
	K-12	31°05'30"N	130°35'32"E	123m
	K-14	31°02'30"N	130°30'53"E	250m

図1 観測点及び観測線図



### 3 観測結果

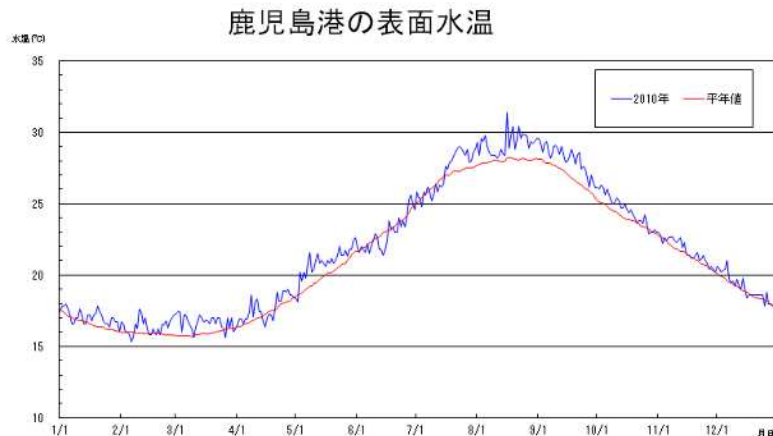
本観測の他に、従来から継続実施している観測により得られたデータも含めて資料整理を行った。

#### 3.1 水温

##### 3.1.1 鹿児島港の水温

鹿児島港における年間の水温変化は図2のとおりである。なお、鹿児島水族館から提供された平成22年度の観測値である。

図2 鹿児島港の表面水温（鹿児島水族館観測）



最低月平均水温	2月	16.4
最高月平均水温	8月	29.2
年間平均水温		21.9
最低水温		15.3
最高水温		31.4

##### 3.1.2 鹿児島湾の水温

鹿児島湾の表面水温は、年間で16～31℃で変化し、湾奥部では観測海域内では最も低い水温を示す傾向がある。湾口部では大隅半島側が薩摩半島側より高温となる傾向があり、外洋からの比較的暖かい海水が大隅半島側に沿って湾内へ流入し、薩摩半島側で湾外へ流出しているためであると考えられる。各観測毎の表面水温分布図を付図1～2、成果表を別表3～5に示す。

鹿児島湾奥及び湾中央部の水温は、各観測点において、水深100m層付近を境に上層は季節による違いがあるが、下層は年間を通じ16℃台で推移し季節による変化の差は小さい。各観測毎の水温鉛直断面図を付図3に、各測点毎の水温鉛直分布図を付図5,6に示す。

#### 3.2 塩分

湾奥部は28.4～34.2PSU（実用塩分単位）と湾中央部、湾口部と比較すると低塩分となっており河川水の流入の影響であると考えられる。観測値が比較的安定する底層でも約34.0PSUで低い値となっている。これは西桜島水道を通じての海水交換が少ないことが考えられる。

湾中央部は33.5～34.6PSUで湾奥部と比較すると変動幅が小さく水深120m以深では約33.9～34.5PSUで安定している。

湾口部は表面から底層まで33.8～34.2PSUで観測海域では最も高い値を示し、年間における変化は少ない。

各観測毎の塩分鉛直断面図を付図4、各測点毎の塩分鉛直分布図を付図5,6、成果表を別表3～5に示す。

### 3.3 流況

#### 3.3.1 沿岸流

長期間に渡るADCP記録を平均化すれば潮流成分は相殺されて、外洋の定常的な沿岸流成分を得ることが出来ると考えられる。本観測によって取得したデータと、巡視船による観測データを合わせて、経緯度1分メッシュ毎に平均化したものを図4に示す。湾外では南東へ0.4~1.2kn程度の沿岸流が卓越し、潮流が卓越する海域と明瞭に区別することができる。

#### 3.3.2 潮流

鹿児島湾西桜島水道付近は、湾内の最狭部にあたり湾内潮流の最強流域となっている。潮流の変化は比較的規則正しく、西桜島水道中央部では、高低潮後3.5時が南北流の最強時となり、水道の中央部よりやや桜島寄りに主流部がある。観測された南流及び北流の最大流速は2.3kn及び2.1knであった。

鹿児島湾湾口部は黒潮及び黒潮支流の影響を強く受ける海域であり、観測された南流及び北流の最大値は1.8kn及び1.9knであった。

湾奥部及び湾中央部の南流及び北流は0.1~0.6knであった。

今後は観測値と潮流推算値の比較を実施していくこととしたい。

### 3.4 透明度

年間における透明度の変化を図5に示す。透明度は湾奥部が最も低く、湾口に近くなるほど高くなる傾向を示している。

年間平均で湾奥部は11~12m、湾口部では19~23mである。

図4 ADCP平均値（観測層：海面下5~10m）

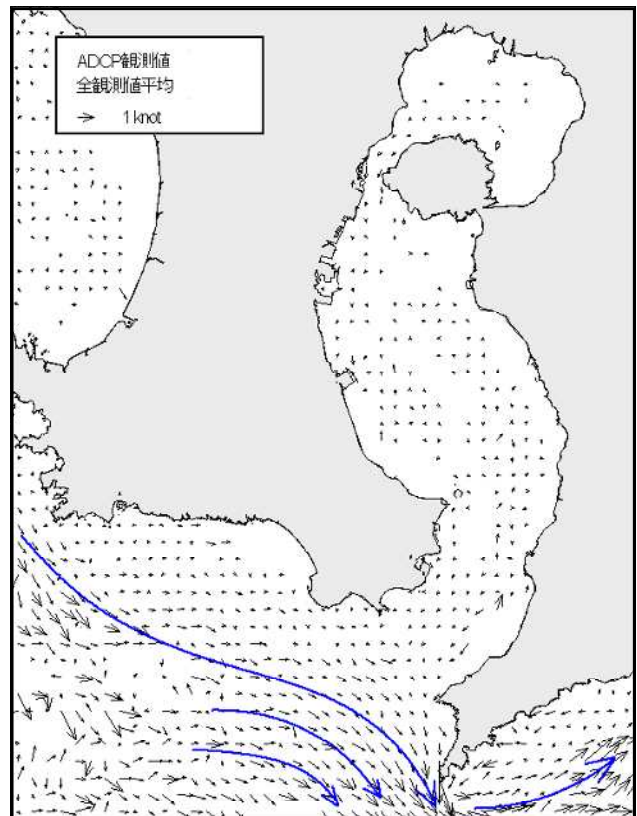
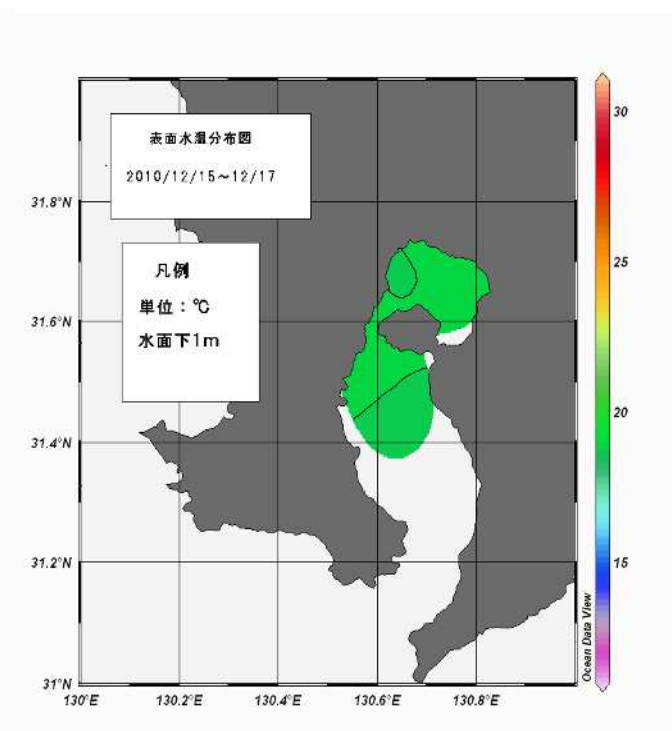
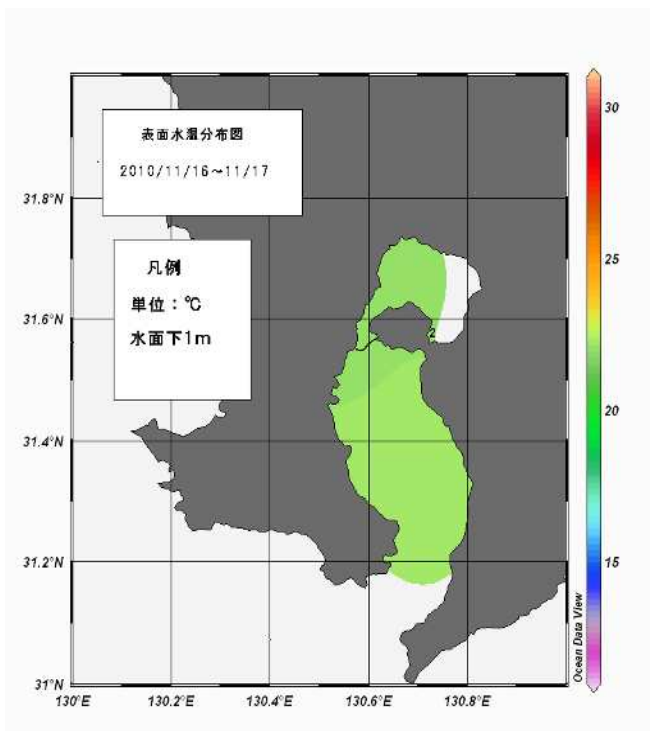
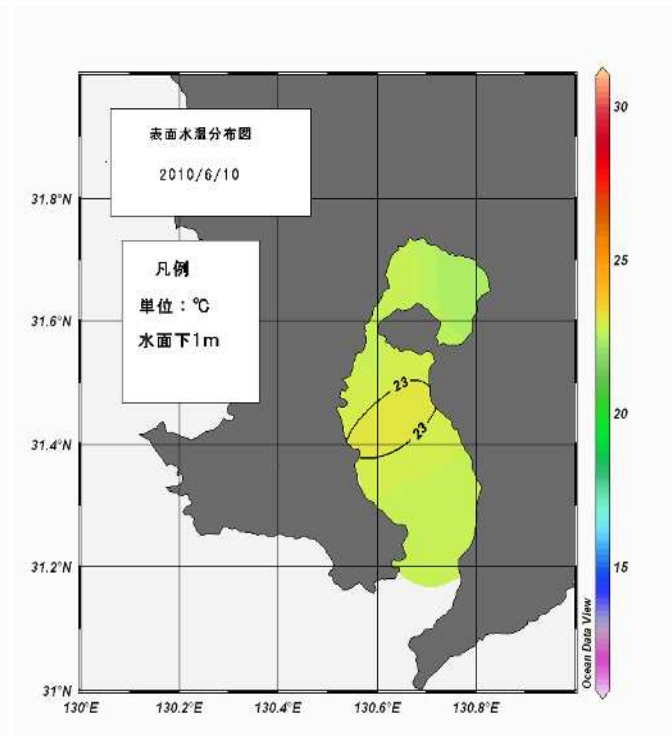
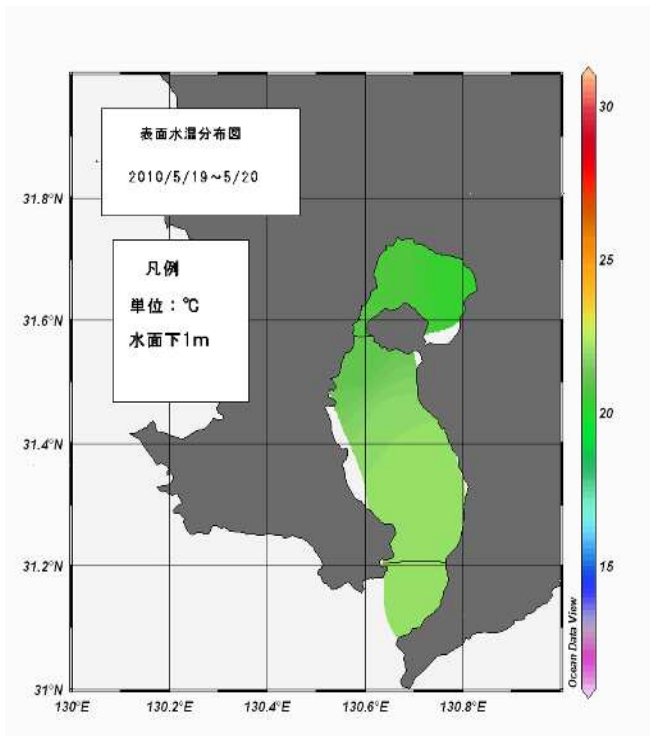


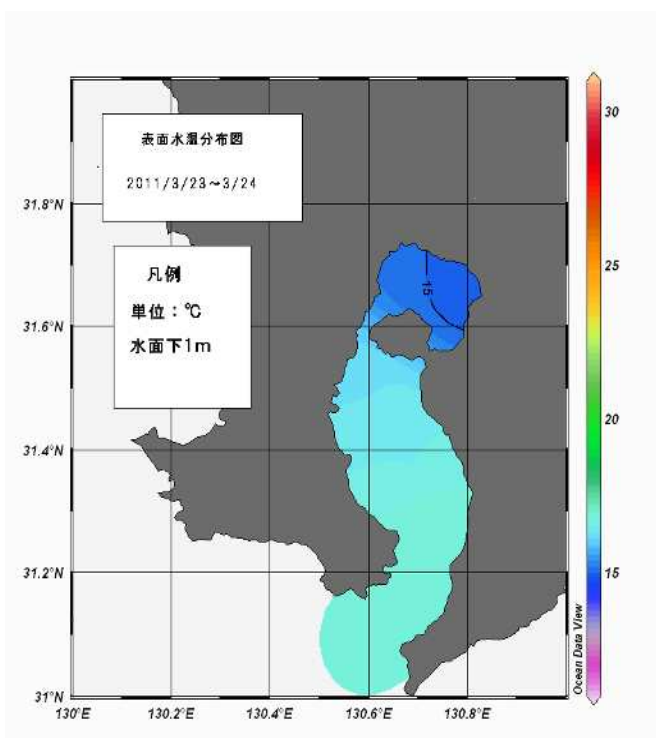
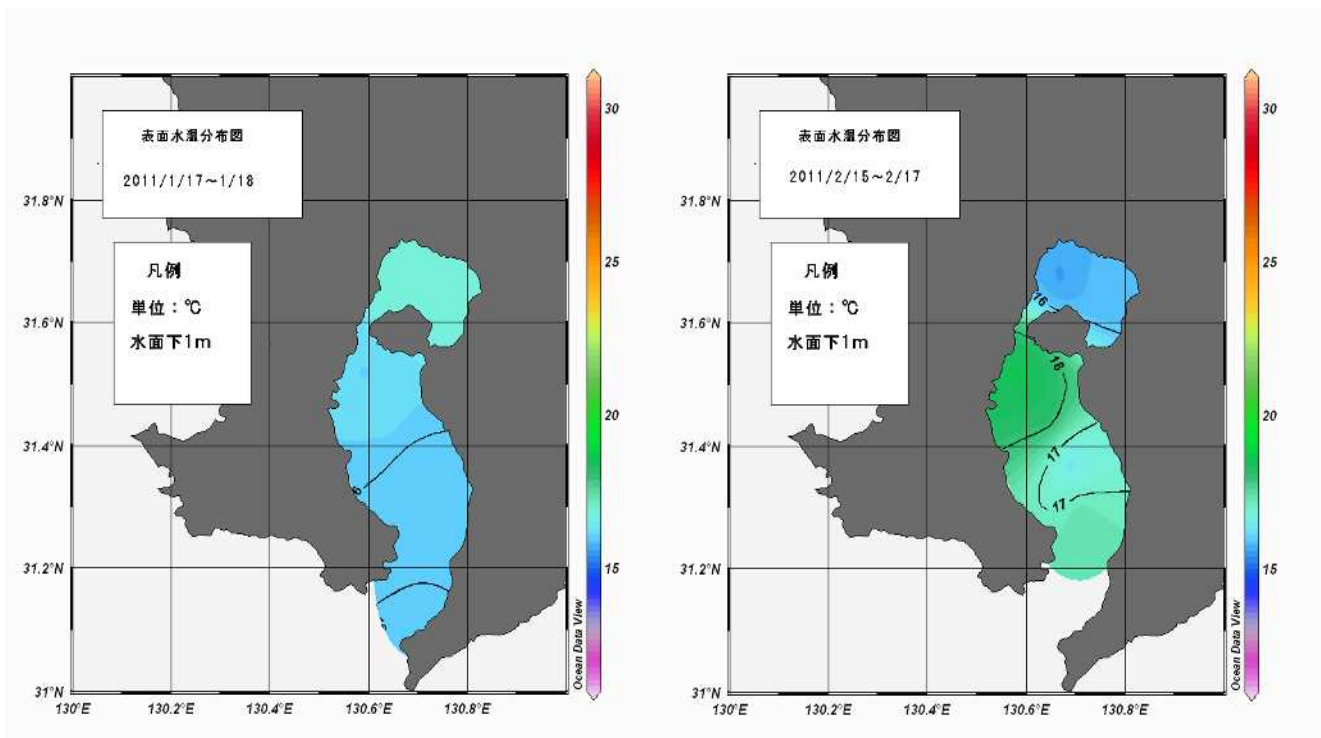
図5 鹿児島湾の透明度





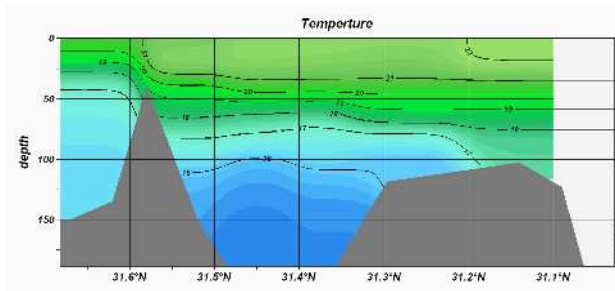
付図1 表面水温分布図 ( 1/2 )

(海面下1m, 单位: )

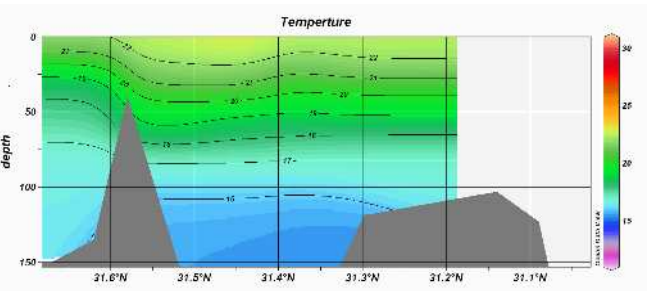


付图2 表面水温分布图 (2/2)

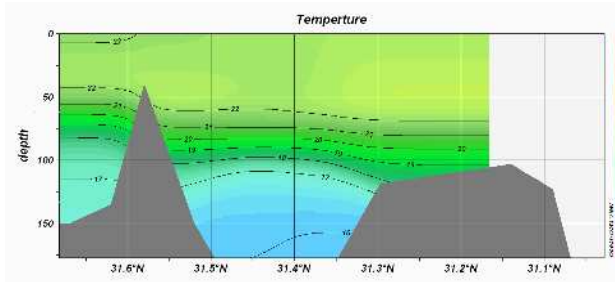
(海面下1m, 单位: )



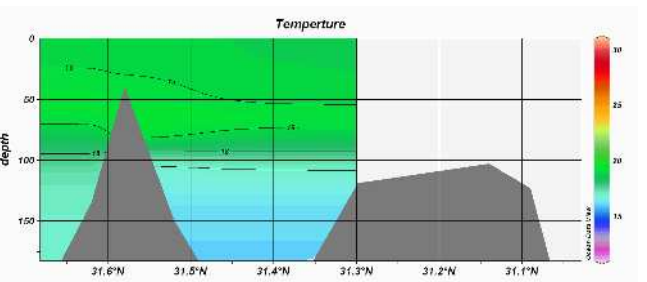
2010年5月19 ~ 20日



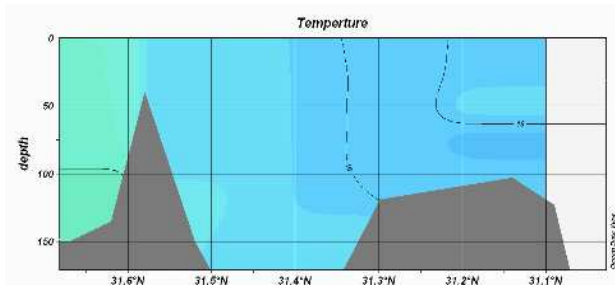
2010年6月10日



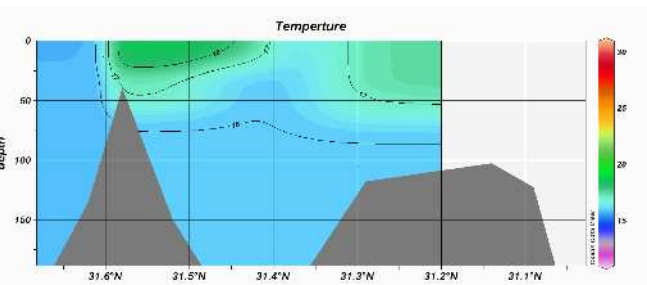
2010年11月16日 ~ 11月17日



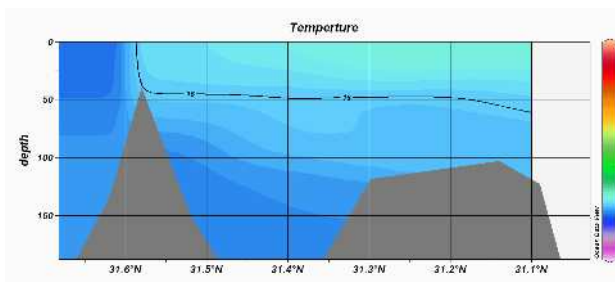
2010年12月15日 ~ 12月17日



2011年1月17日 ~ 1月18日

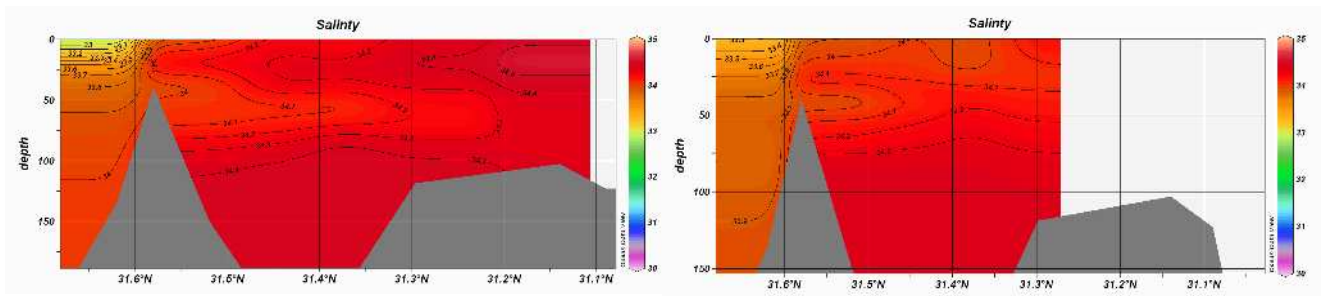


2011年2月15日 ~ 2月17日



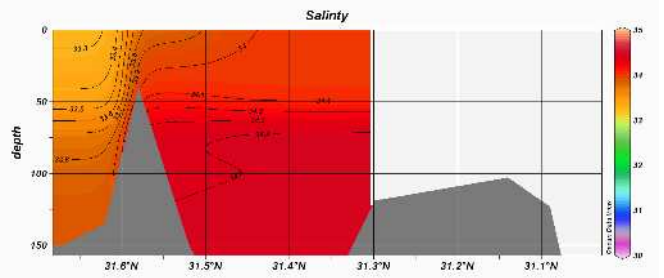
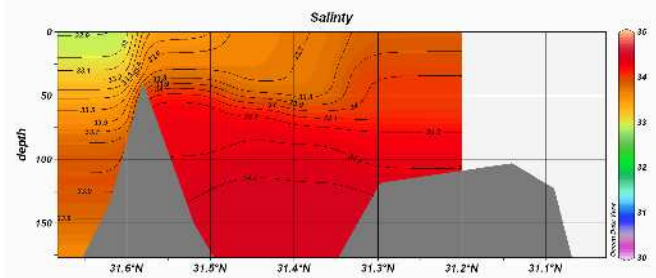
2011年3月23日 ~ 3月24日

付図3 水温鉛直断面図



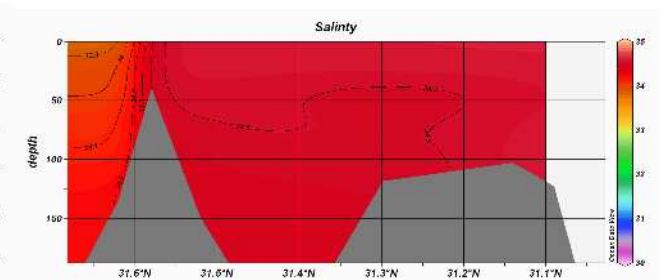
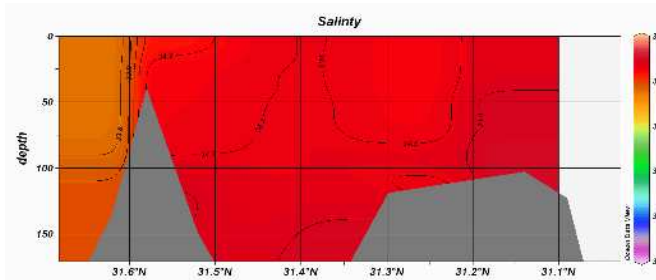
2010年5月19日 ~ 5月20日

2010年6月10日



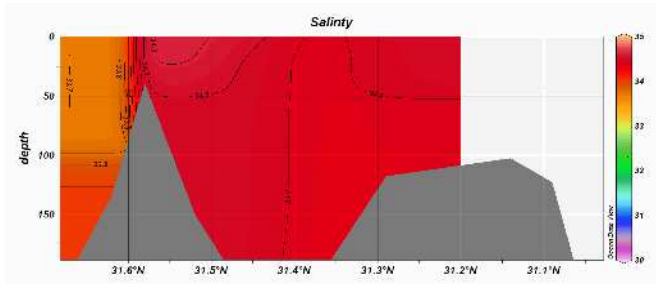
2010年11月16日 ~ 11月17日

2009年12月15日 ~ 17日



2011年1月17日 ~ 18日

2011年2月15日 ~ 2月17日



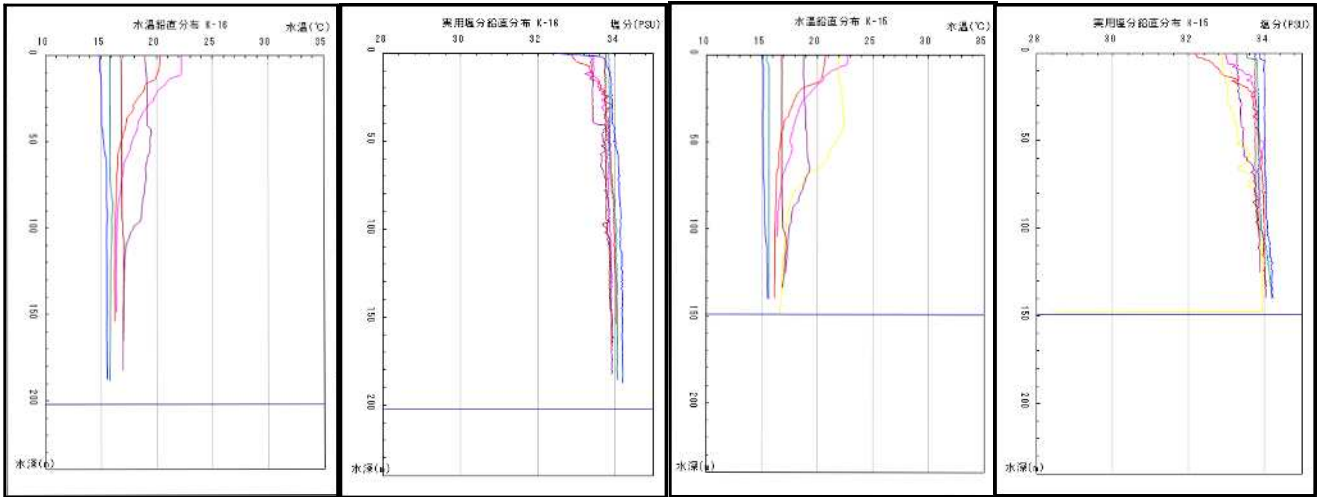
2011年3月23日 ~ 3月24日

付図4 塩分鉛直断面図



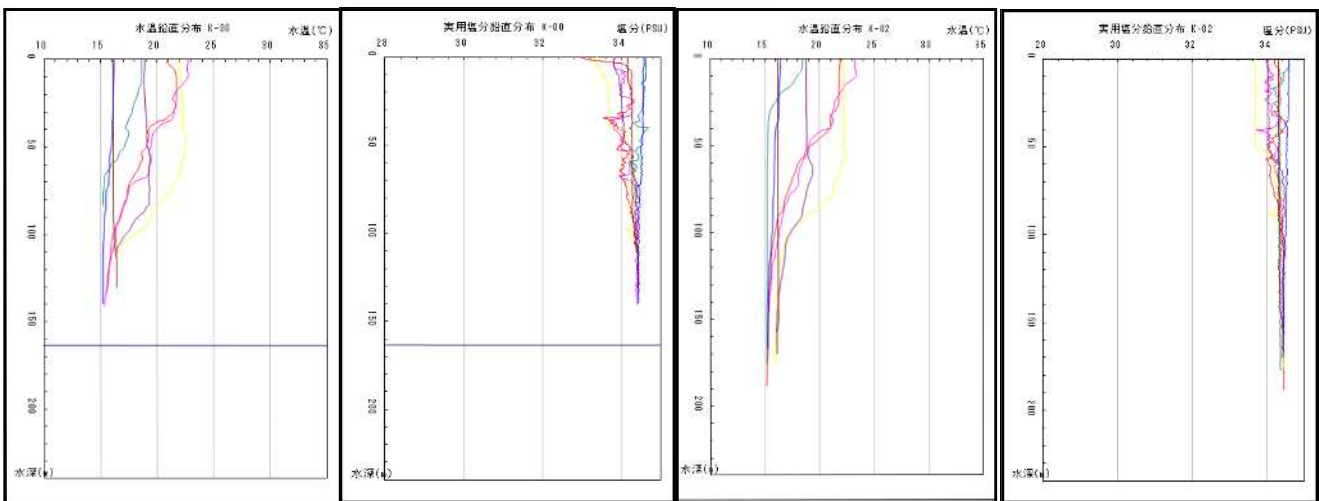
K-16

K-15



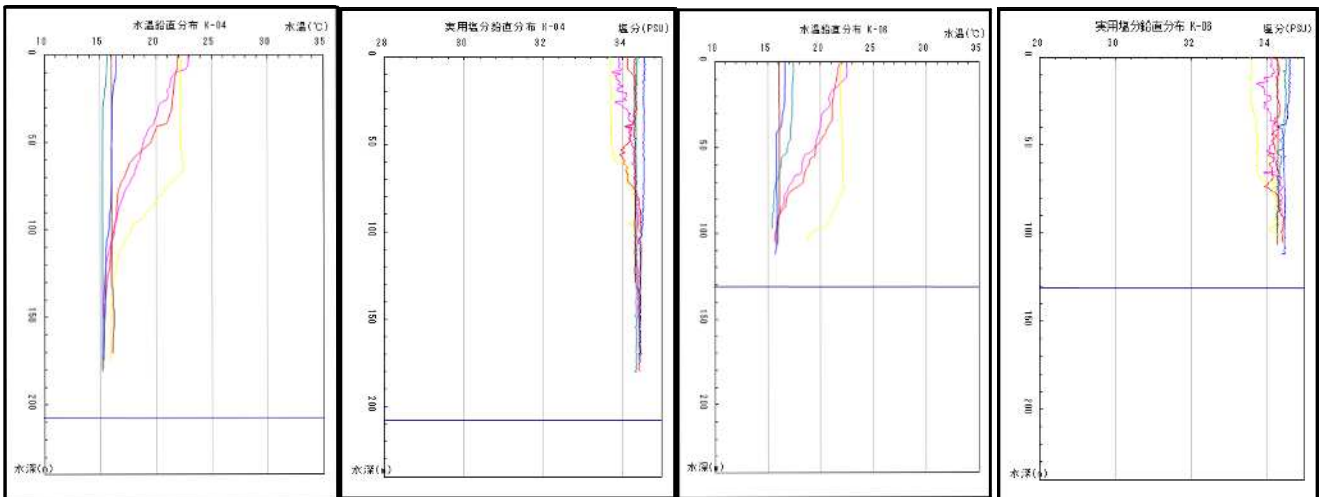
K-00

K-02



K-04

K-06



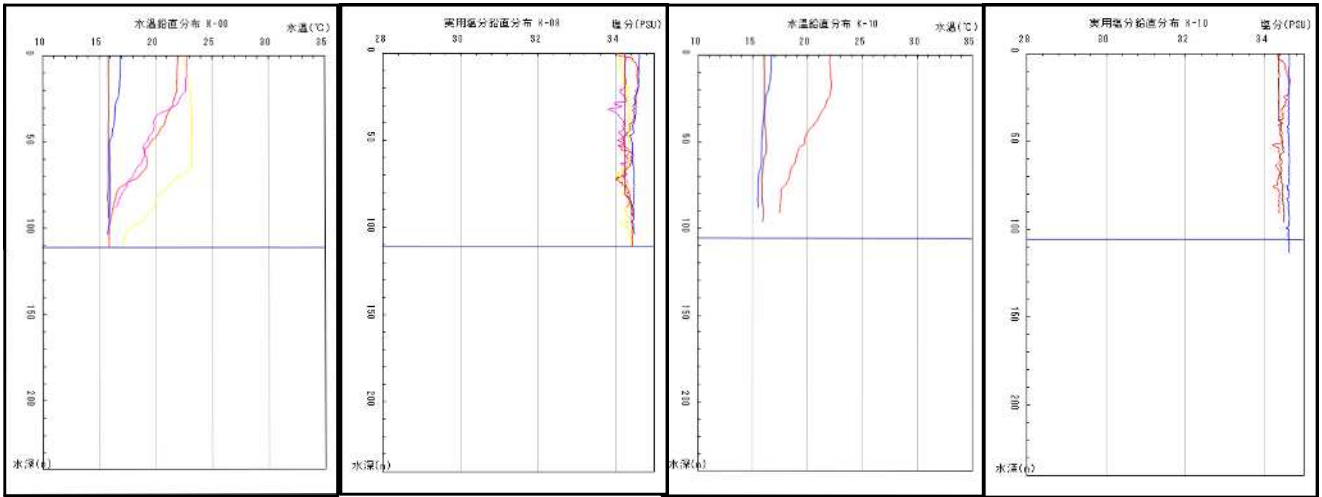
凡例



付図5 各観測点毎の水温及び塩分鉛直分布図 (1/2)

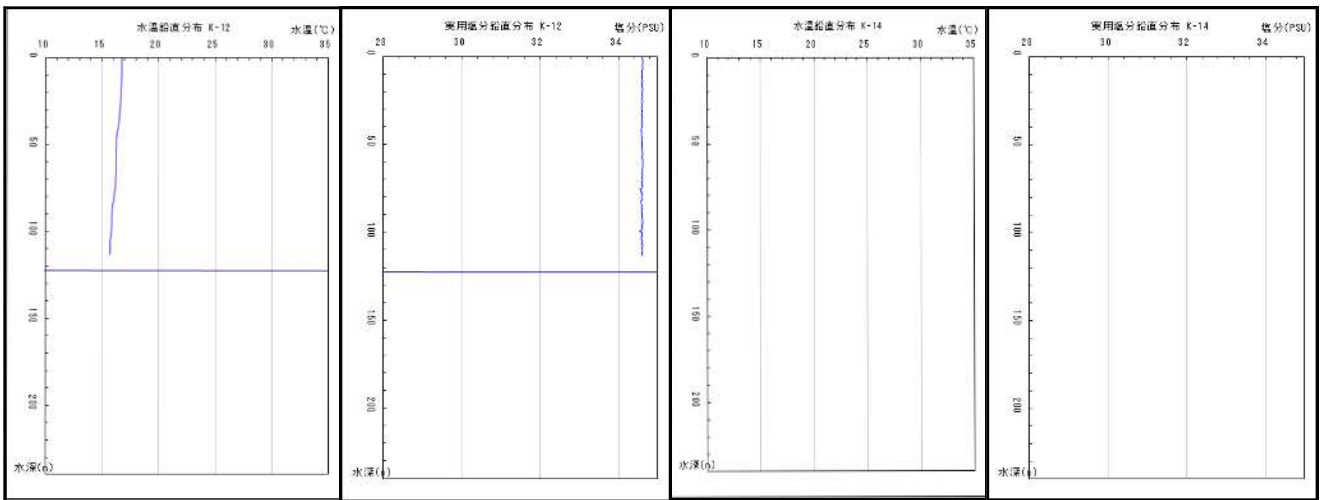
K-08

K-10



K-12

K-14



凡例



付図6 各観測点毎の水温及び塩分鉛直分布図 (2/2)